

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H04479

研究課題名（和文）21世紀における社会分断克服空間としての図書館に関する総合的研究

研究課題名（英文）Libraries as Spaces for Overcoming Social Divisions in the 21st Century

研究代表者

小泉 公乃 (Koizumi, Masanori)

筑波大学・図書館情報メディア系・准教授

研究者番号：70567461

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、先進的な図書館における社会分断克服空間の特徴を解明し、モデルを構築したうえで、21世紀における公共図書館の正統性の次元と要素を詳細に記述した。まず包括的文献レビューと米国・ノルウェー・日本の政策分析をしたうえで、事例分析に基づいて社会分断の克服に貢献できる新しい図書館空間の性質を導出した（「修正版四空間モデル」等）。次に図書館機能のなかでも「場」に焦点を当て、場を構成する要素を「場としての図書館モデル」として詳述した。さらに図書館空間とそこで展開されるサービスについての市民の経験と認識を質問紙調査から把握した。最終的に、21世紀における図書館の正統性を構成する5つの次元を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会分断は21世紀の世界的な課題であり、公共図書館は社会分断を克服するためのサービスを開発してきたが、関連研究は個々の事例報告にとどまっていた。本研究の学術的意義は、21世紀における先進図書館を社会分断克服空間として位置づけた体系的な分析をはじめて実施し、それに貢献する図書館空間やサービス領域における基盤を正統性として提示したことである。また、実学を基礎とした図書館情報学領域において、広く適用可能な研究理論として複数のモデルを構築した。社会的意義は、北欧北米と日本における先進図書館の事例分析によって、一般的な図書館に向けても将来的に社会分断克服空間へ変革していくための道筋を示したことにある。

研究成果の概要（英文）：This study revealed the roles of advanced libraries in mitigating social divisions, constructed several models, and illustrated the legitimacy of public libraries in the 21st century. Initially, a comprehensive literature review regarding public libraries and social divisions was conducted. Next, policy analyses were performed across the United States, Norway, and Japan. Thirdly, case studies were conducted to extract key characteristics of 21st-century library spaces, such as the "Revised Four-Space Model." The study then shifted focus to the spatial functions of libraries, elaborating on the components of these spaces in the "Library as Place Model." Additionally, a questionnaire survey captured citizens' experiences and perceptions of library spaces and services. Ultimately, the research delineated five critical dimensions that define the legitimacy of public libraries in the contemporary era.

研究分野：図書館情報学

キーワード：公共図書館 社会分断 正統性 場としての図書館 政策分析 事例分析 質問紙調査 国際比較研究

## 1. 研究開始当初の背景

21 世紀の中心的課題は、産業構造の変化や不安定化する国際政治によって生じた社会分断を克服することであり、公的な社会教育施設である公共図書館は、この新しい時代において「社会分断克服空間」への変革が求められている。実際に、図書館先進国といわれる北欧諸国や豊かな図書館文化を持つ米国では、移民の増加や格差の増大によって深刻化するコミュニティの分断を解決するために、地域社会の中核的な交流拠点として公共図書館が新たに建設・改築されたり、情報格差を是正するためのイベントや経済格差を克服するためのプログラムが創造されたりしてきている。このように、現在、「社会分断克服空間」として生まれ変わりつつある公共図書館の機能と役割、革新メカニズムや図書館員の専門性の創造過程、さらには 21 世紀において正統な公共図書館として幅広い文脈におけるステークホルダーに貢献し、社会的に意義のある機関として評価されるためのあり方を明らかにすることは、21 世紀の公共図書館におけるもっとも重要な研究課題である。

## 2. 研究目的

本研究の目的は、北欧北米と日本の先進的な公共図書館を対象とし、社会分断克服空間としての機能と役割を解明したうえで、21 世紀における正統的な公共図書館のあり方を提示することである。

研究課題として、以下の 6 点を設けた。

- (RQ.1) 北欧北米と日本の図書館政策はどのようなものか。〈政策的視点〉
- (RQ.2) 北欧北米の先進図書館は、いかにして次世代図書館に変貌したか。〈歴史的視点〉
- (RQ.3) 北欧北米の先進図書館はどのような革新的なサービスが提供されているのか。また、どのような経営手法を用いているのか。〈図書館サービスと経営的視点〉
- (RQ.4) 革新的サービスを支える図書館員の専門性は何か。〈専門性の視点〉
- (RQ.5) 先進図書館の立地する地域の市民はどのようなニーズを抱え、どのように新しいサービスを使っているのか。〈地域コミュニティの視点〉
- (RQ.6) 新しく創造された図書館をどのように評価すべきか。〈正統性と新評価法の視点〉

## 3. 研究方法

本研究は、1)現代における社会分断の要素や図書館評価の変遷を解明するための包括的な文献レビュー、2)文化政策に積極的な北欧を含む各国の公共図書館に関する政策分析、3)先進的な取り組みとして近年増加する図書館プログラムの実態を解明するための分析、4)市民の図書館利用やプログラムへの参加目的を分析するための質問紙調査を中心に実施した。このうち、質問紙調査については、当初予定していた海外への訪問調査及びエスノグラフィが新型コロナウイルス感染症の影響により困難になったため、計画を変更し、コミュニティにおける市民の視点から公共図書館のサービスを解明するためにオンラインで実施したものである。

## 4. 研究成果

### 21 世紀の地域コミュニティにおける社会分断の状況 (RQ1~6: 研究全体に関連する視点)

21 世紀における社会分断は世界的に喫緊の課題となっているが、具体的にどのような要素が分断を生み、公共図書館がそれらを克服するためにどのような活動をしてきたのかについては解明されてこなかった。そこで、社会分断を解決するための公共図書館の活動が記述された文献を対象にシステムティック・レビューをおこなった。文献は、図書館情報学の主要な抄録データベースである LISA および LISTA から収集したうえで、47 件が対象となった。分析の結果、公共図書館が社会分断の克服に貢献するための領域は、主として「デジタルデバイド」、「経済的格差」、「属性的分断」という 3 つの側面から構成されることがわかった。同時にこれらの 3 つの側面における公共図書館の活動についても事例に基づいて解明した(Igarashi, T., Koizumi, M., & Widdersheim, M. M., 2023)。

### 各国の公共図書館に関する政策(文化政策)の特徴(RQ1)

本研究課題では、公共図書館に関連する政策を対象として国や自治体が社会分断の克服にどのように取り組んでいるかを明らかにすることを目的とした調査を実施した。政策文書の対象範囲は、1)中央政府や地方政府が図書館または図書館類縁機関の方針等を示したものの、2)各機関が自らの運営方針や戦略計画について示したものである。自治体によっては公開されていない場合もあるが、原則としてこの両方を対象とした政策分析をおこなった。

北欧では、オスロ市(ノルウェー)を事例とした。21 世紀に入り北欧各国では図書館法の改正が進み、民主主義の醸成を図書館の役割とする記述が増えてきている。ノルウェーでも 2014 年に法改正が行われ、この変化によって図書館の戦略にも、社会的連帯を強化するための民主主義に関する記述が増加していることが明らかになった(Kawamoto, M., Yamagishi, M., Larsen, H., & Koizumi, M., 2022)。

米国においては、世界で最も多様なコミュニティを持ち、社会的な格差も激しいニューヨーク

州を対象とした(Yamagishi, M., Koizumi, M., & Widdersheim, M. M., 2022)。具体的に分析対象としたのは、全米に助成している博物館・図書館サービス機構 (Institution of Museum and Library Services, 以下 IMLS) の政策である。この IMLS の政策を対象にした分析では、2000 年代前半には、資料のデジタル化や新たに導入する IT 機器に対応するための図書館員の研修など、デジタル推進の施策に対する助成が行われ、情報格差の是正が図られていた。2000 年代後半になると、リテラシー能力の向上や就業支援など、地域や市民の課題解決に向けたサービスが強化された。さらに、IMLS の 2022-2026 戦略計画では、博物館と図書館の共通方針として、多様なバックグラウンドを持つ人々に配慮したコレクションへのアクセス拡大が目指されていた。

日本においては、東京都立図書館の政策を中心に分析した。日本の図書館政策は明示的に社会分断の解決に貢献しようとする記述はみられないことがわかった。これは日本社会において、社会分断が喫緊の課題として認識されていないことにあることが推察される。しかしながら、日本の公共図書館においても、北欧や米国と類似した機能が拡張されてきていることも解明された。

## どのように変革したかの特徴(RQ2, 3)

### 先進的な公共図書館の事例分析(1)

北欧では、フィンランドのヘルシンキ・セントラル・ライブラリー・オーディ (オーディ図書館) を対象に、建設過程、空間、機能、役割とその革新プロセスを分析した。その結果、オーディ図書館は地域社会の中核的拠点として、民主主義の醸成と文化創造の役割を強化していることが判明した。また、社会的分断を含む多様な社会課題を解決するプログラムも多数提供していた。経営的視点からは、既存の組織構成員を物理的な図書館から分離し、新しいイベントやプログラムに応じてスペシャリストが出向く柔軟な組織構造に移行しつつあることが明らかになった。

米国においては、ニューヨーク公共図書館を対象にリノベーションプロジェクトに着目し、その内容の変遷について分析した。2014 年から継続して実施されているリノベーションプロジェクトは、ニューヨーク公共図書館の多くの分館を改修するものであり、空間とサービスの両面から一体的な革新に取り組んでいる。質的内容分析の結果、同プロジェクトではコミュニティを最も中核的な次元とし、一貫した理念のもとで空間とサービスの有機的な変革がなされていた。また、ニューヨーク公共図書館はリノベーションプロジェクトや経営計画を策定する際に、より多くの市民の声を取り入れるイベントを実施していた。市民ニーズが多様化する現代の先進図書館では、市民が参画できる革新プロセスがより重要になってくることが推察された。

日本では、武蔵野市における政策文書を対象に歴史的な変遷を解明した。結果として、武蔵野方式で策定される長期計画には、市民の意見が時期を問わず反映されていることがわかった。市民参加の方法が多様化し、対象市民の属性が拡大する中で、計画に反映される市民の意見の範囲も広がっていた。市政における公立図書館は、単体での整備のみならず生涯学習やコミュニティに関する政策のなかでも記述されていた。武蔵野プレイスの建設を巡る専門家の議論が次第に市民に浸透し、新たな図書館像が評価されるようになってきていることがわかった。

## 社会分断克服空間の機能と役割からみたモデルの構築(RQ3, 4)

### 先進的な公共図書館の事例分析(2)

公共図書館は、社会の安定と民主主義の健全性を脅かす分断を緩和する役割を果たすために、社会分断を克服し得るプログラムを近年増加させている。図書館プログラムは、コミュニティの多様なニーズに応え、コレクションを活用しながら個々の課題にアプローチしたり、地域の連帯の創出に寄与したりする可能性を持つ。事例分析では、図書館プログラムを年間に 100,000 件以上実施しているニューヨーク公共図書館 (米国)、2018 年にコミュニティのための多様な空間を備えて開館したオーディ図書館 (フィンランド)、オスロの公共図書館 (ダイクマン図書館) (ノルウェー) を対象として、それぞれの図書館プログラムのデータを収集した。特に、プログラムの開催件数の多いニューヨーク公共図書館を対象とした分析では、図書館情報学領域において新奇性の高いトピック抽出の手法である潜在的ディリクレ配分法(LDA)を用いて 24 のトピックを導出した(Yamagishi, M., Koizumi, M., Widdersheim, M. M., & Igarashi, T., 2022)。オーディ図書館では、1,330 件のイベントを対象にオープン・コーディングによる質的内容分析を実施したうえで、修正版四空間モデルを提示し、プログラムが社会的格差の解消に寄与することを示した(Igarashi, T., Watanabe, M., Tomita, Y., Sugeno, Y., Yamagishi, M., & Koizumi, M., 2023)。ダイクマン図書館では、3,183 件のプログラムを分析し、経済格差やデジタル格差の克服に直接貢献していることが明らかになった。これらの研究結果は、公共図書館がコミュニティのレジリエンス、寛容さ、民主主義を育む場として重要な役割を果たす可能性を示している (Igarashi, Koizumi, & Johnston, 2023)。

さらに、北欧の図書館調査から北欧モデルを基礎にした図書館員の専門性を明らかにし、社会的分断の克服に関連した、進化する公共図書館と北欧モデルとの強固な関係性について詳述した。具体的には、事例分析の対象として、オスロ (ノルウェー)、トロムソ (ノルウェー)、ストックホルム (スウェーデン)、オーフス (デンマーク)、ヘルシンキ (フィンランド) の図書館および図書館法の最近の変化を分析したうえで、強固で特異な北欧モデルによるエコシステムが、1) ブッククラブや共通の社会問題に関連するシェアード・リーディングのイベント、2) 図書館員の重要な専門性として中立性や言論の自由といったライブラリアンシップ、3) 公共図書館を

民主的なコミュニティの中心と見なす政府や政治家の認識、4) 図書館法が民主主義の基盤となる図書館に大きな影響を与えていことを解明した (Koizumi & Larsen, 2023)。

### **社会分断克服空間として中核的な機能を果たす「場としての図書館」のモデル構築**

公共図書館はサービスと空間を通して格差の解消に寄与することができる。このうち、図書館の空間については、「場としての図書館」の視点から質的内容分析を行い、3つの象徴的基盤を核とする概念を整理し、概念モデルとして提示した。具体的には、図書館の場所としての役割と機能について言及した関連する175件の学術論文を対象に質的内容分析および時系列分析を実施した。その結果、図書館の場所としての役割に関する2,966件のコードを抽出し、3つの象徴的基盤(英知、遺産、コミュニティ)11のカテゴリ(知性、創造性、新奇性、文化・歴史性、中立性、平等性、利用者の自律性、公共性、私的性、社会性、友好性)および30のサブカテゴリに整理した概念モデルを構築した。さらに本研究では、1990年代以降、図書館の場所としての概念が急速に発展し、その役割が伝統的なものから多様化していることが浮かび上がった(Kawamoto & Koizumi, 2023)。

### **地域コミュニティ・市民の図書館利用(RQ5)**

#### **先進的な公共図書館の事例分析(3)**

事例分析のもう一つの視点は、市民が公共図書館をどのような目的で利用し、図書館での経験によって地域社会への参加をどのように促されるかを明らかにすることである。オンライン質問紙調査により、北欧、米国、日本の先進図書館の立地する地域の18歳以上の住民を対象に図書館利用の実態を調査した。北欧ではオスロ市(ノルウェー)で501件、米国ではニューヨーク市で約1,000件、日本では東京都新宿区で553件、武蔵野市で513件の回答が得られた。調査結果によると、図書館は主に図書の貸出と情報提供という伝統的な役割を果たしており、市民の利用方法やサービスの重要性に対する評価においてもその傾向が強いことがわかった。

北欧では、市民の公共図書館についての認識は、図書館は主に図書の貸出と情報提供という伝統的な役割と関連付けられており、個人の利用方法や図書館サービスの重要性に対する評価でもその傾向が強いことがわかった。また、多数ではないものの図書館は市民や多様なコミュニティをつなぐ役割を持つという意見も見受けられた。このことから、コレクションを基盤として新しいサービスを市民に提供していくことは住民間の経験の格差を是正し、相互理解を促進する上で重要であることが解明された(Igarashi, Koizumi, & Johnston, 2023)。

ニューヨーク市の調査では、約7割が図書館プログラムに参加しており、ブッククラブや宿題支援、就職活動の支援が頻繁に利用されていた。また、こうしたプログラムへの参加を通じて、「年齢の異なる人々」や「自身と異なる民族」との出会いが多く、図書館が地域コミュニティ内で新たな価値観との交流の機会を提供しており、社会分断の克服に貢献していた。新宿区と武蔵野市の調査でも、図書館利用の主な目的は読書関連のサービスであり、これらのサービスは住民から地域社会における重要な機能として認識されていた。一部の回答者は図書館をミーティングプレイスとしても認識しており、この機能が今後より多くの市民に浸透する可能性が示唆された。

また、北米の訪問調査では、COVID-19パンデミック下における情報回避(Information Avoidance)の状況が浮かび上がった。市民はCOVID-19の状況を知るためにテレビのニュースで情報を取得していたが、不快な情報を避けるために情報行動を変更していた。このことは、情報取得に関する知識の蓄積が情報行動に影響を与えることを示しており(Matsubayashi, 2023)、パンデミックのような不安定な状況下では公共図書館の情報リテラシー支援の重要性が高まることが示唆された。

### **新しく創造された図書館サービスをどのように評価すべきか(RQ.6)**

デンマークのロスキレ中央図書館の事例分析を通じて、図書館評価における正統的な価値づけの必要性が示唆された。2020年に発表されたロスキレ図書館の報告書では、公共図書館の影響を分析するための「インパクト・コンパス」が設計され、「安息の場」、「パースペクティブ」、「創造性」、「コミュニティ」の4次元および12のパラメーターで構成されている。しかし、この12のパラメーターは過去の研究とワークショップに基づいて決定されたもので、その理論的背景は不明確であった。そのため本研究では、インパクト・コンパスの12のパラメーターの評価の重要性と理論的背景を詳細に解明した(Igarashi, Koizumi, & Wake, 2022)。

さらに、図書館評価の土台となる、地域社会における図書館の理念や価値などを統合的に検討するために、公共図書館の正統性(Legitimacy)という概念に着目し、21世紀においてどのように正統性が論じられてきたのかを包括的な文献レビューから詳述した。分析の結果として、5つの次元1)民主主義、2)文化・歴史、3)教育、4)経済、5)ライブラリアンシップを抽出した(Yamagishi, Koizumi, & Larsen, 2024)。欧米で提示されることの多い正統性の概念は、公共図書館や図書館組織に対する文化的支持の度合いを指し、さらに図書館の経営者や図書館員の行動が、市民等の公衆及び資金提供する団体によって望ましい、適切である、または妥当であるとみなされるかどうかを指す。特に欧米における図書館員は、その行動や実践を通じて公共図書館の正統性を達成しようとしてきた。同時に、図書館の正統性は時代に応じて変化し続けていることが指摘されており、評価についても既存のものを活用するだけでなく、新たな視点を含める必要性について検討

し続けることが重要であることがわかった。

最後に総合分析のなかで、21世紀においてもコレクションへのアクセスが重視され続け、それが図書館の中核的な機能・役割と図書館員の専門性に非常に重要な意味を持つことが解明された。そのほか、国際比較に関する研究成果については、今後国際学会等で発表する予定である。

## 引用文献

- Igarashi, T., Koizumi, M., & Wake, N. (2022). The impact and concept of public libraries in the twenty-first century. In Proceedings of CoLIS, the 11th. International Conference on Conceptions of Library and Information Science, Oslo, Norway, May29 - June 1, 2022. *Information Research*, 27(Special issue), paper colis2225.
- Igarashi, T., Koizumi, M., & Widdersheim, M. M. (2023). Overcoming social divisions with the public library. *Journal of Documentation*, 79(1), 52–65.
- Igarashi, T., Watanabe, M., Tomita, Y., Sugeno, Y., Yamagishi, M., & Koizumi, M. (2023). Public library events with spaces and collections: Case analysis of the Helsinki Central Library Oodi. *Journal of Librarianship and Information Science*, 55(3), 681-693.
- Igarashi, T., Koizumi, M. & Johnston, J. (2023). Public Library Programming and Events for Overcoming Social Divisions. *Libri*, 73(4), 345-354.
- Igarashi, T., Johnston, J., Koizumi, M. (2024). Community Members' Perspective on Public Libraries as Places to Overcome Social Divisions: A Case Study in Oslo. In: Sserwanga, I., et al. *Wisdom, Well-Being, Win-Win. iConference 2024. Lecture Notes in Computer Science*, vol 14597. Springer, Cham.
- Jochumsen, H., Rasmussen, C. H., & Skot-Hansen, D. (2012). The four spaces - a new model for the public library. *New Library World*, 113(11), 586–597.
- Kawamoto, M., & Koizumi, M. (2023). Library as place: conceptual model for public libraries and their transition. *Journal of Documentation*, 79(2), 376–397.
- Kawamoto, M., Yamagishi, M., Larsen, H., & Koizumi, M. (2022). Promoting public libraries as democratic spaces through governmental and municipal library strategies: Norwegian library strategies post 2014 law changes. *Information Research: An International Electronic Journal*, 27.
- Koizumi, M., & Larsen, H. (2023). Democratic librarianship in the Nordic model. *Journal of Librarianship and Information Science*, 55(1), 208-217.
- Yamagishi, M., Koizumi, M., & Larsen, H. (2024). Evolving Legitimacy of the Public Library in the 21st Century. *Journal of Documentation*, *In print*.
- Yamagishi, M., Koizumi, M., & Widdersheim, M. M. (2022). Analysis of the Dynamics Among State Libraries, Local Libraries, and Citizens in the United States. In *Lecture Notes in Computer Science (including subseries Lecture Notes in Artificial Intelligence and Lecture Notes in Bioinformatics): Vol. 13192 LNCS*.
- Yamagishi, M., Koizumi, M., Widdersheim, M. M., & Igarashi, T. (2022). Topic modelling of diverse events in the 21st century public library: A case analysis of New York Public Library. *Information Research*, 27 (Special Issue).

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 8件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Koizumi, Masanori; Larsen, Hakon	4. 巻 55
2. 論文標題 Democratic librarianship in the Nordic model	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Librarianship and Information Science	6. 最初と最後の頁 208 ~ 217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/09610006211069673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Igarashi, Tomoya; Koizumi, Masanori; Widdersheim, Michael M.	4. 巻 79
2. 論文標題 Overcoming social divisions with the public library	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Documentation	6. 最初と最後の頁 52 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JD-12-2021-0244	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Igarashi, Tomoya; Koizumi, Masanori; Wake, Naomi	4. 巻 27
2. 論文標題 The impact and concept of public libraries in the twenty-first century	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Information Research: an international electronic journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.47989/colis2225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kawamoto, Marika; Yamagishi, Motoko; Larsen, Hakon; Koizumi, Masanori	4. 巻 27
2. 論文標題 Promoting public libraries as democratic spaces through governmental and municipal library strategies: Norwegian library strategies post 2014 law changes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Information Research: an international electronic journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.47989/colis2226	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamagishi, Motoko; Koizumi, Masanori; Widdersheim, Michael M.; Igarashi, Tomoya	4. 巻 27
2. 論文標題 Topic modelling of diverse events in the 21st century public library: A case analysis of New York Public Library	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Information Research: an international electronic journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.47989/colis2227	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawamoto, Marika; Koizumi, Masanori	4. 巻 79
2. 論文標題 Library as place: conceptual model for public libraries and their transition	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Documentation	6. 最初と最後の頁 376 ~ 397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JD-02-2022-0046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Igarashi, Tomoya; Watanabe, Momoka; Tomita, Yumi; Sugeno, Yuki; Yamagishi, Motoko; Koizumi, Masanori	4. 巻 Online
2. 論文標題 Public library events with spaces and collections: Case analysis of the Helsinki Central Library Oodi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Librarianship and Information Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/09610006221097405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamagishi, Motoko; Koizumi, Masanori; Widdersheim, Michael M.	4. 巻 13192
2. 論文標題 Analysis of the Dynamics Among State Libraries, Local Libraries, and Citizens in the United States	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Information for a Better World: Shaping the Global Future	6. 最初と最後の頁 12 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-96957-8_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 五十嵐智哉; 橋本ひとみ; 河本穂馨; 小泉 公乃	4. 巻 2020
2. 論文標題 北欧の公共図書館におけるイベント : ダイクマン図書館を対象とした事例分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集	6. 最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小泉公乃	4. 巻 692
2. 論文標題 フィンランドとノルウェーの公共図書館における革新	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小泉 公乃; 五十嵐 智哉	4. 巻 517
2. 論文標題 図書館の評価を意義あるものにするために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 みんなの図書館	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugeno, Yuki; Koizumi, Masanori	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Research Trends in Public Libraries as Public Spheres in Library and Information Science: Topic Modelling with Latent Dirichlet Allocation	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 LIBRI: International Journal of Libraries and Information Studies	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/libri-2024-0041	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamagishi, Motoko; Koizumi, Masanori; Larsen, Hakon	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Evolving legitimacy of the public library in the 21st century	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Documentation	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JD-02-2024-0028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsubayashi, Mamiko	4. 巻 60
2. 論文標題 Expanded Model of Everyday Information Practices with Information Avoidance in Digital Environments	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the Association for Information Science and Technology	6. 最初と最後の頁 1071 ~ 1073
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pr2.948	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawamoto, Marika; Koizumi, Masanori	4. 巻 60
2. 論文標題 Practices of the "Library as Place" in Norway	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the Association for Information Science and Technology	6. 最初と最後の頁 615 ~ 619
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pr2.826	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawamoto, Marika; Koizumi, Masanori; Yoshikane, Fuyuki	4. 巻 73
2. 論文標題 Proposal of a Qualitative Content Analysis Process for a Solo Researcher	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 LIBRI: International Journal of Libraries and Information Studies	6. 最初と最後の頁 139 ~ 152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/libri-2022-0068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Igarashi, Tomoya; Koizumi, Masanori; Johnston, Jamie	4. 巻 73
2. 論文標題 Public Library Programming and Events for Overcoming Social Divisions	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 LIBRI: International Journal of Libraries and Information Studies	6. 最初と最後の頁 345 ~ 354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/libri-2023-0014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Igarashi, Tomoya; Johnston, Jamie; Koizumi, Masanori	4. 巻 14597
2. 論文標題 Community Members' Perspective on Public Libraries as Places to Overcome Social Divisions: A Case Study in Oslo	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Wisdom, Well-Being, Win-Win. iConference 2024. Lecture Notes in Computer Science	6. 最初と最後の頁 322 ~ 337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-57860-1_22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Tetsumi, Saki; Momodori, Naoki; Sugeno, Yuki; Igarashi, Tomoya; Takashima, Waka; Koizumi, Masanori
2. 発表標題 Bridging Tradition and Innovation: Teen Services through the Lens of HOMAGO in Yokohama's Central Library
3. 学会等名 Wisdom, Well-Being, Win-Win. iConference 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Igarashi, Tomoya; Koizumi, Masanori
2. 発表標題 Citizens' perception of modern public library's roles: A case analysis of Shinjuku City in Tokyo
3. 学会等名 BOBCATSSS 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takashima, Waka; Katano, Juri; Sugeno, Yuki; Kawamoto, Marika; Koizumi, Masanori
2. 発表標題 The Characteristics and Roles of “Library as Place” in Japan
3. 学会等名 BOBCATSSS 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sugeno, Yuki; Koizumi, Masanori; Widdersheim, Michael M.
2. 発表標題 Comprehensive Topic Modeling of Research on Public Libraries and the Public Sphere
3. 学会等名 BOBCATSSS 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小泉公乃
2. 発表標題 欧米の事例からみる民主主義と図書館
3. 学会等名 第107回全国図書館大会山梨大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Igarashi, Tomoya; Watanabe, Momoka; Tomita, Yumi; Sugeno, Yuki; Yamagishi, Motoko; Koizumi, Masanori
2. 発表標題 A comprehensive analysis of an advanced public library's events: Case analysis of the Helsinki central library Oodi
3. 学会等名 The 14th International Conference of the International Society for Third Sector Research (ISTR) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小泉公乃
2. 発表標題 北欧の公共図書館：21世紀における新しいコミュニティの場
3. 学会等名 北欧文化協会2020年9月例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉田 右子 (Yoshida Yuko) (30292569)	筑波大学・図書館情報メディア系・教授  (12102)	
研究分担者	池内 淳 (Ikeuchi Atsushi) (80338607)	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授  (12102)	
研究分担者	松林 麻実子 (Matsubayashi Mamiko) (10359581)	筑波大学・図書館情報メディア系・講師  (12102)	
研究分担者	和気 尚美 (Wake Naomi) (80799742)	三重大学・情報教育・研究機構・助教  (14101)	
研究分担者	河本 穂馨 (Kawamoto Marika) (70964831)	山梨英和大学・人間文化学部・助教  (33503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------